

令和4年度事業計画

1. はじめに

令和4年度はWAC設立35周年に当たる年です。1988年（昭和63年）4月、下河辺淳会長のもと、社団法人長寿社会文化協会（WAC）は誕生しました。平成が始まり、令和となり、過ぎた年月が長い分、事業の変遷とともに大勢の人々との交流がありました。今年度は、35周年を意識して、これまでの歴史を振り返りつつWACの現在と未来の可能性について考えて参ります。

令和2年から続くコロナ禍は、自粛や制限された生活が長期化し、特に高齢者などの介護の必要な人々とその家族に多大な影響を及ぼしています。予測は困難ながら長引くコロナ禍からの脱却と制限の緩和が待ち望まれています。

令和4年度事業の代表として、平成26年のWAMによる助成事業「全国的・広域的ネットワーク活動支援事業」以来となる助成事業が決定しました。日本財団助成「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成」事業は、東北ネットワークセンターと近畿ネットワークセンターとともに実施の予定です。

千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業は第5期1年目、港区アクティブシニアみなと・しごと55は令和3年度末に終了して、公2事業は新たにスタートします。中止・縮小となっていた事業の復活の可能性を探ります。WAC主催イベントの実施、地方展開、ふれあいねつとの発行回数を増やし、会員と活動地域の拡大を目指します。

2. 会員に関して

会員拡大は本協会の重要な課題であり、新規会員獲得、既存会員の継続に向けて会報誌等を通じて会員に役立つ情報提供をするなど魅力あるWACとなるように努力を続けます。賛助会員費は寄付金に該当します。税額控除の対象団体として認められた令和元年から、会費に対する税額控除の利用者は少しずつ増えていきます。この利点をアピールして会員拡大に役立てます。会員からの要望でもある交流イベントの実施、ポイント等の活動支援を行い、個人会員拡大を目指します。法人会員については、高齢者・認知症疑似体験事業等により新規会員の獲得を図ります。

（単位=千円）

*会員拡大のための経費は一般管理費等より支出

収入予算
2,400

3. 事業に関して

【公益目的事業】

【公1事業】《高齢者福祉増進・啓発事業》

○高齢者の福祉・健康・生きがいきづくり等支援事業（千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理）

令和4年度は、第5期指定管理(2022年4月1日～2025年3月31日)の初年度となります。千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題（地域包括ケアシステムの構築など）に取り組めるよう、自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応える事業を進めます。

平成 18 年開所以来、「県民に愛される施設を目指す」をスローガンに 16 年間、千葉県のご指導の下に県民とともに高齢者福祉の増進に努め年間利用者数 20 万人を越える施設となりましたが、今年度は前年度に引き続きコロナ禍の影響が続くと予想されるため、感染防止策を徹底しつつ県民研修やイベントなどの規模縮小等効率化を図るとともに、オンラインの活用拡大を図り全県への発信を強化いたします。また、施設を活用したリアルな活動も可能な限り対応して介護福祉の啓発、高齢者の健康維持、不安解消、安らぎの提供に努めます。

① 介護実習センター

県民研修（一般・専門職）を 100 講座、認知症啓発イベント、福祉機器展、地域の茶の間、地域の茶の間スペシャル（認知症カフェ）、認知症の方の家族の集い、新たな試みとして働く世代のケアラズカフェ（オンラインカフェ）を開催。

② 介護予防トレーニングセンター

介護予防講習として一般向け教室 3 講座、登録者向け教室 3 講座計 6 講座を開催。

③ ふれあいホール

ホール自主企画事業として新規にパラスポーツ講習会と体験会を県民研修講座として実施。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
85, 283	85, 283	0

○福祉サービスの質の向上事業（福祉サービス第三者評価事業）

東京都が福祉サービス第三者評価を本格実施した 2003 年、同年に WAC は評価機関として認定されました。厚生労働省から出されるガイドライン等に基づき、東京都の第三者評価制度は改定されつつも広がりを見せ、近年は多様な福祉サービスへの対応が求められるようになりました。WAC はそれらの変化に順応して可能なサービス種別を増やしてきました。2020 年からはコロナ禍によって評価方法にオンラインが加わるなど大きな変化がありましたが、訓練を重ねて対応しました。

令和 4 年度は、事業の基盤となる評価員の人材確保を中心として事業の存続と適正化に努めます。

①事業規模

評価件数 目標 30 件（収入 1,150 万円）
 利用者調査等 目標 5 件（収入 150 万円）
 評価者 リーダー：延 30 人、一般評価者：延 50 人

②体制整備

・ 内部研修、体制整備、評価関係業務の見直し

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
13, 000	13, 000	0

○長寿社会の啓発事業（「ふれあいねっと（会員向け情報誌）」の発行）

令和 4 年度は会員と本部を繋ぐ情報誌として充実を図り、年 4 回の発行を目指して広報活動の強化を図っていきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
0	2,000	▲2,000

【公2事業】 <<高齢者の雇用・就労支援事業>>

「みなと＊しごと 55」港区アクティブシニア就業支援センターが閉館となったため、無料職業紹介所を同センターからWAC本部事務局に移転して事業を継続します。令和4年度は、本部事務局での就労支援に向けて事業構築に取り組みます。自治体委託の就労支援、就職相談会の受注と高齢者の生きがい就労のための相談事業を目指します。

①自治体委託の就労支援、就職相談会の実施

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
2,500	2,500	0

【公3事業】 <<地域の相互扶助機能活性化事業>>

(コミュニティカフェ)

令和4年度は、自治体関連との連携によりコミュニティカフェ開設講座を開催します。埼玉県と連携した講座は3年目となります。自治体のニーズに合わせた講座の企画・運営、講師派遣にも取り組みます。

また、日本財団助成による「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成」事業をWACポイントや協力団体と連携して実施します。

・自治体等連携コミュニティカフェ開設講座

①いきいき埼玉 埼玉未来大学、その他自治体 収入予算 880千円

・日本財団助成事業概要

助成金額 1,620千円

①事業内容

・「支え合う地域福祉」啓発イベント

…講演、シンポジウム等3時間程度を仙台、京都の2か所で実施、オンデマンド配信、無料

・多様な地域ボランティア養成講習（認知症カフェ等で活動するボランティアの育成）

…啓発イベント後2か所で実施、3時間×2日、見学実習1日、受講料3,000円

②事業運営

WACネットワークセンター（東北、近畿）と本部事務局、地元の有力なボランティア団体が連携して運営委員会方式で事業を実施する。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
2,500	2,500	0

【収益目的事業】

令和2年度から、コロナ禍の影響で収益事業の3部門とも事業規模の縮小が余儀なくされてきました。令和4年度は、中止されていた事業の再開が徐々に決まり、回復が見込まれています。

〔収1事業〕 《高齢者福祉関係人材育成事業》

生活支援サービス研修や介護の入門研修など高齢者福祉関係の人材育成事業を行います。

・東京しごと財団委託研修

- ①生活支援サービス研修 収入予算 1,450千円
生活支援サービス研修（29時間／5日×年6回）実施。飯田橋3回、国分寺3回。
- ②生涯現役セミナー 収入予算 23,012千円
55歳以上の就労支援に向けた研修を6月から翌3月まで（60回）実施。

・自治体委託研修

- ①新宿区家族介護講演会及び家族会応援ボランティア養成講座・交流会 収入予算 825千円
講演会（7月）2時間×1回、ボランティア養成講座（9月）2時間×2回、交流会（1月）2時間×1回
- ②その他入門研修等 収入予算 4,113千円

・WAC主催

- ①千葉県県民研修等 収入予算 3,600千円

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
33,000	24,000	9,000

〔収2事業〕 《高齢者・認知症疑似体験事業》

・高齢者疑似体験事業及び認知症疑似体験事業

WACの強みである質の高い研修の提供を継続的に行うため、時代に即した情報の共有化を行い、事業展開します。貸出・販売ともにホームページがきっかけとなっている現在、新たな顧客の開拓を目指してホームページを充実させます。依頼主の要望に合わせてプログラム内容を開発した実績をもって、今後の多様な要望に応える柔軟な事業運営を目指します。

①インストラクター研修

高齢者疑似体験インストラクター養成研修は、本部で年4回行い、出張研修を交えて、受講生100名を目指します。

WAC本部／年4回（6月、9月、12月、3月）1名14,000円（内会費3,000円）

②貸出・販売等

2年連続で中止となった台東区小中学校生対象の体験研修は実施の予定です。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
10,000	6,000	4,000

〔収3事業〕

《介護予防委託事業》

(品川区委託事業)

認知症、高齢者引きこもりの予防、生きがい・仲間作りの支援のため、自治体から介護予防事業として委託を受け、引き続き取り組みます。

・男の手料理教室、わくわくクッキング、外出習慣化事業「食事処」

本事業は高齢者の介護予防事業として、品川区から委託された事業で、WACポイントのWACさしすせそと実施しています。教室受講生も運営する側も高齢者であり、料理を通じて、生きがい、健康、仲間づくりができており、介護予防事業として評価されています。令和2年2月以来、コロナの影響で中止となっていました。介護予防は高齢者にとってなくてはならない事業です。今年度、規模は縮小されますが、「わくわくクッキング」から再開が決定、外出習慣化事業「食事処」が次に続く予定です。感染防止対策を整え、安全な事業運営に努めて実施します。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
3,000	2,000	1,000